**（シンポジウムに用いた症例で症例発表も行う際の**

**症例発表申込フォームの例です）**

**発表原簿**

|  |  |
| --- | --- |
| 演題名 | 下顎前歯部叢生を臼歯遠心移動により改善したアングルⅡ級１類過蓋咬合症例 |
| 演者氏名  （筆頭演者に○をしてください。） | ○梶井　貴史、朝田　尚衡 |
| 勤務先 | 社会医療法人恵佑会札幌病院　矯正歯科、朝田歯科医院 |
| 郵便番号 | 003-0026 |
| 住所 | 札幌市白石区本通９丁目南１番１号 |
| Tel | 011 863 2105 |
| Fax | 011 864 1032 |
| E-mail | kajii@keiyukaisapporo.or.jp |

|  |
| --- |
| 希望の発表形式を下記より選び、○をしてください。 |
| |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 一般口演 |  | ○ 症例発表 | 症例報告（認定医更新用） | |

**（２）症例報告・症例発表用フォーマット**

|  |
| --- |
| タイトル：下顎前歯部叢生を臼歯のen masse distalizationにより改善したアングルⅡ級１類過蓋咬合症例 |
| 所属・氏名：  １社会医療法人恵佑会札幌病院　矯正歯科、2朝田歯科医院  ○梶井貴史１、朝田尚衡２ |

|  |
| --- |
| **【症例発表の目的】**下顎前歯部叢生に対して、小臼歯非抜歯で、歯科矯正用アンカースクリューを用いて臼歯を一塊とした遠心移動を行い、叢生の改善と良好な歯列咬合が比較的迅速に獲得された症例を報告する。  【**症例の概要**】  **【主訴】**前歯が出ている、口が閉じづらい  **【初診時年齢、性別】**24歳10か月　女性  【**顏貌所見**】正貌symmetry、側貌convex type、flat mandible  【**口腔内所見**】Angle Class II、overjet +7.0 mm、overbite +4.0 mm、上下顎歯列正中は顔面正中に対しほぼ一致、下顎前歯に軽度の叢生が認められた。左側下顎頭の動きがやや悪かったものの、クリック音は認められず、最大開口量は40 mmで開口障害は認められなかった。  **【口腔内X線所見】**上顎左右第三大臼歯の歯胚が認められた。  【**頭部X線規格写真**】骨格系ではSNA 81.0º、SNB 73.0º、ANB 8.0º、Gonial angle 120.5º、FMA 34.5ºであり、下顎骨の劣成長と下顎角の狭小が認められた。歯系ではU1 to SN 113.0º、L1 to MP 101.0ºであり、上下顎切歯の唇側傾斜が認められた。  【**診断および治療方針**】「下顎骨の劣成長による骨格性下顎後退症で、下顎角の狭小と過度のSpee彎曲による過蓋咬合、上下顎切歯の唇側傾斜、下顎前歯部軽度叢生を伴う」と診断した。上顎両側第一小臼歯を抜去し、本格矯正治療を行うこととした。  【**診断・治療方針時の留意点**】過蓋咬合であることを踏まえ、下顎前歯部叢生と唇側傾斜の改善に必要なスペースは、下顎小臼歯抜去ではなく、臼歯の遠心移動により確保することとした。その際、治療期間が長引かないように、ローフリクションブラケットと歯科矯正用アンカースクリューを用い、スクリューから犬歯へ直接エラスティックチェーンをアンダータイでかけて、犬歯から大臼歯までを一塊（en masse）とし遠心移動を図ることとした。  【**装置および治療経過**】上下顎にローフリクションブラケット（.022”×.025”slot preadjusted）を装着し、本格矯正治療を行った。上記の通り、下顎歯列弓のen masse distalizationを5か月間行い、片側で3.5 mmの遠心移動量を得た。  **【動的治療期間】**2年5か月  **【保定装置・期間】**Clear Retainer（上顎）とLingual bonded retainer（下顎）による保定1年半を経過し、現在に至っている。  【**症例に対する考察**】ローフリクションブラケットと歯科矯正用アンカースクリューを用いて臼歯（さらには歯列弓全体の）遠心移動を図る際には、スクリューから犬歯へ直接エラスティックチェーンをアンダータイでかけることにより、いわゆるen masse distalizationが確実かつ比較的迅速に行えることが示された。 |